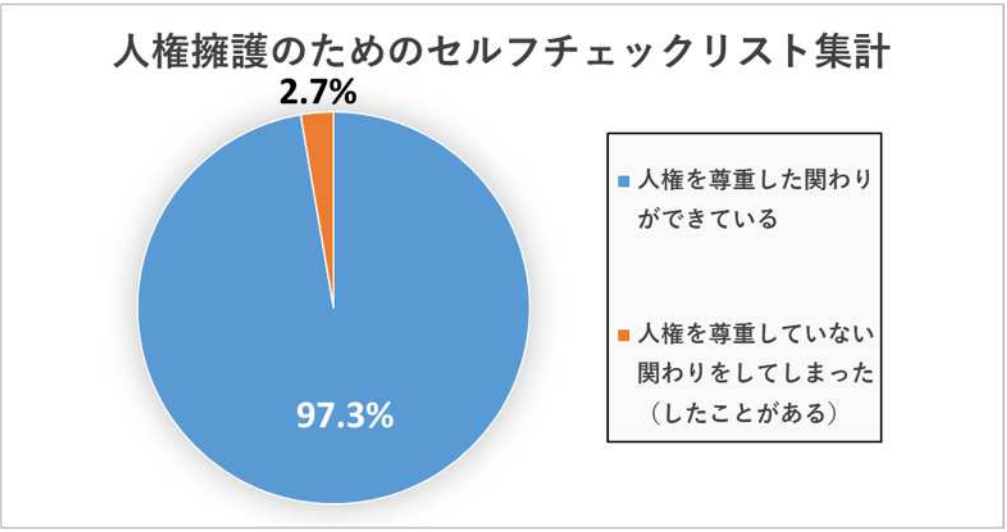
北保育所　**人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和６年度６月実施）**

全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 97.3%が望ましい対応をしていることが分かりました。2.7%の望ましくない対応は主に次の３項目に見られました。

寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。

外で寝るように言うことはありません。布団を敷く場所に関しては、睡眠が必要な子の保障をするため、布団の並びを入れ替えたりすることがあります。午睡は休息の時間でもあり、眠れなくても身体を休める時間として捉えているため、環境設定として気持ちが落ち着けるよう、クラスの様子に合わせて工夫をしています。引き続き一人ひとりの子どもに合わせた対応を心がけていきます。

少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

子どもの好みを把握した上で、子どもと相談しながら、その子に合わせた量を盛りつけていくことを確認しました。苦手なものがお皿にのることで、食べる意欲がなくなってしまう子もいるため、どの子にとっても安心して食事ができるよう、一人ひとりの意思を尊重し、楽しい食事となるよう配慮していきます。

寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。

一人ひとりの睡眠リズムや、心地よい距離感を把握した上でそばについています。大人がそばにつくことで安心して寝る気持ちになれる子や、一人で眠りたい子等、好みはそれぞれなので、子どもの思いに寄り添う形で午睡時間を過ごしています。午睡時に限らず、どの子も心地よく過ごせるよう配慮して保育することを話し合いました。